



■編集・発行 平塚市青少年指導員連絡協議会 広報委員会 ■事務局 平塚市青少年課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9-1 TEL 0463-71-5950 FAX 0463-21-9738

はたちのつどい特集



▲笑顔でワンショット

運営協力

令和8年1月12日、令和8年平塚市はたちのつどいがひらしん文化芸術ホールにて開催されました。冬晴れの日でした。

平塚市青少年指導員理事会では、市および実行委員会からの依頼を受け、運営をサポートしています。当日は、青少年指導員に加え、ジュニアリーダー、ヒコーキ雲の会の皆さんと共に、「受付」「警備」「来館者案内」「誘導巡回」「総合案内」「駐車場」の6つの係に分かれ、一致団結して運営にあたりました。

これまで見守ってきた平塚の子どもたちが健やかに成長し、この「はたちのつどい」という場を共にできたことを心から嬉しく思います。同じ「大人」というステージに立ち、新たな一歩を踏み出す彼らの晴れやかな姿に、深い感慨を覚えました。

第二部の式典終了後、ガラス張りのホワイエには、未来を照らすような黄金色の夕映えが差し込んでいました。その温かな光に包まれながら、実行委員のみなさんと青少年指導員で記念撮影を行い、まるで彼らの輝かしい船出を全員で見送ったかのような、清々しい心持ちになりました。今号裏面では、はたちのつどい実行委員のみなさんから寄稿をいただきました。ぜひご覧ください。

朝礼



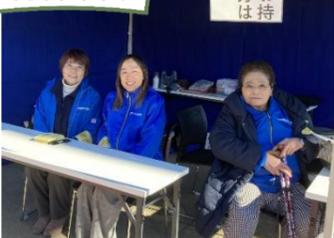
10時に会場前広場に集合です。当日の準備にあたる平塚市職員、青少年指導員、ジュニアリーダー、ひこぎ雲の会のみなさんが揃って、当日の作業について気持ちを引き締めて耳を傾けました。

受付



案内状の回収や会場への誘導、パンフレットの配布などについてコンピネーションよく対応をします。

総合案内



案内状を忘れた方や落とし物等、お問合せについて笑顔で対応をします。

会場



入場された方に前から詰めてお座りいただけるよう声掛けをして案内をします。

警備



安全に入場できるよう見守りや声掛けをします。

市表彰

12月21日に令和7年度平塚市青少年健全育成成功者表彰式が青少年会館にて行われました。

平塚市で活動する各種団体のみなさんが対象で長きに渡る功績を讃えて平塚市長から表彰状が手渡されました。青少年指導員からは8地区13名が表彰を受けました。



▲表彰された皆さんと共に記念撮影



広報委員のつぶやき

はたちを迎えられた皆様、おめでとうございます。あなたが今生きていることは、奇跡です。地球上の何億もの人の中から両親が会い、生まれたたった一人のかけがえのない命、それがあなたです。

あなた自身を愛してください。大切にしてください。それができたら、周りの人を思いやり、どんな立場の人も生きていることを尊く感じられる社会になると思うのです。

あなたが、そしてみんなが自分らしく生きていける社会を、いろいろな個性の人たちをありのまま受け入れる社会を、戦争をしない社会を作りたいと、半世紀前にはたちになったおばさんは願っています。

松延地区 伊川真理

広報委員会
委員長 事務局

大和田マイ子(大原) 宮田憲太郎(花水)伊東多恵子(豊田)土屋裕之(神田)川口隆史(城島)村形伸一(金田)石井康仁(真土)田邊貴也(なでしこ)伊川真理(松延) 高島正和(青少年課)市川紗采(青少年課)

祝はたちのつどい



はたちのつどい

Congratulations to everyone at Hatachi

2026
1.12

令和8年
平塚市はたちのつどい

- 日時
令和8年1月12日
- 会場
ひらしん平塚
文化芸術ホール
- 対象者数
2,485人
- 参加者数
1,864人



はたちのつどい実行委員長として、これまでの慣例にとらわれない新しい企画に挑戦しました。ステージでは芸人の方を招くのではなく、実行委員長と副実行委員が登壇し抽選会を実施し、会場内には複数のフォトスポットを設置しました。自分たちが前に立つことや企画を形にすることには不安もありましたが、多くの仲間や大人の方々に助けていただき、最後までやり遂げることができました。この経験を通して、挑戦することの大切さと、人の支えがあってこそ一歩踏み出せることを実感しました。今後は、私自身が挑戦し続けるとともに、挑戦する人を支えられる存在になりたいと考えています。

はたちのつどい実行委員会
実行委員長

堀田 亮



はたちのつどい実行委員会
副実行委員長

深江 悠斗

今回の「はたちのつどい」に参加した大半の青年は、令和七年に二十歳を迎えました。その令和七年は、日本の将来を憂いて平塚復興を志した青年により設立された「平塚文化創世学生連盟」が、昭和二十一年に「市民新聞」の発行を開始してからちょうど八十年目の節目でした。この前年、昭和二十年は終戦の年であり、平塚大空襲により全世代が被害を受け、また青年にとっては、出兵・奉仕先で米軍による攻撃を受け、そして現在の高浜高校をはじめとした数多くの自らの学び舎をさへ空襲により焼け失うという耐えがたい苦汁を舐めた年でした。このような時期の、青年が主体となる社会的奉仕活動の八十周年という記念となる今年度、私が副実行委員長の職を拝命いただきましたことに、何かしらの因縁を感じざるを得ません。

また、私は皆様からボランティアを頂いたことだけに意義があると思えませんでした。このような記念すべき年に、今まで青少年指導員の指導を受けてきた私達が、今度は青少年指導員と共に式典を作り上げていくことができた。「私達は大人側になったのだ」ということを実行委員会がまず体現し、私達と青少年指導員が協同してその姿を参加者に見せることが出来た。このことに、ボランティアを超えた、非常に崇高な意義があったと感じます。

青少年指導員の皆様の御協力と格別の御配慮をいただきましたおかげで、本式典は大きな問題もなく、無事閉会を迎えることが出来ました。改めてお礼を申し上げます。



はたちのつどい実行委員会
副実行委員長

高橋 和花



はたちのつどい実行委員会
会計

高橋 暖和



はたちのつどい実行委員会
広報

長島 綾音

今回ははたちのつどい実行委員を務めさせていただきました。ありがとうございます。

実行委員をやると思ったきっかけは、小さい時からの思い出がたくさん詰まった平塚で何か成し遂げたいと漠然と思っていたことです。高校、大学と平塚を離れたことで地元への愛着が湧きもっと地域行事に関わっていきいたい、と感じることが多くなりました。

企画などの計画を練る中で、特に過去に行っていたことを踏襲するのか新たなことをするのか決定するのにたくさん迷いました。その中でもより良いものにするために新たなチャレンジをしよう、と対面での抽選会を開催したことはとても良かったと感じています。友人から抽選会が楽しかった、当たらなかった～など感想を色々聞いてとても嬉しかったです。普段の生活ではなかなか得ることの出来ない達成感を味わうことができました。

私たちが全力を尽くすことはもちろんなのですが、満足できるはたちのつどいを行うことができたのは平塚市の役所、企業の方々、参加者のみなさん、家族をはじめとしたたくさんの方の支えがあったおかげです。本当にありがとうございました。

実は、実行委員になったのはかなり成り行きに近い形だったのですが、今では「挑戦して本当に良かった」と心から思っています。

私たちは5月から活動を開始しましたが、例年より人数が少ない上に、メンバーそれぞれが忙しくなかなか全員で集まれなかったり、時には意見が真っ二つに割れたり、前途多難なスタートでした。本番直前までトラブルが続き「本当に大丈夫だろうか」と不安が消えませんが、実行委員長をはじめとする仲間の支え、当日お力添えをいただいたボランティアの皆様、そしていつも丁寧にご指導くださった市役所青少年課の皆様のおかげで、無事に当日を終えることができました。

中でも、コロナ禍を経て久しぶりに対面で開催した抽選会が想像以上に好評で、友人も楽しそうにその話をしてくれたのが何より嬉しかったです。支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

式典では、円滑な運営へのお力添えと多くの祝福のお言葉を賜り、誠にありがとうございました。ご参加くださった20歳の方々の楽しんでいる姿が見られ、素敵な式典にすることができたのではないかと感じております。

私は、イベントごとには参加するよりも開催側として関わることが好きで、姉がはたちのつどい実行委員会で活動していた頃から、漠然とですが応募してみたいと考えておりました。活動が始まると、想像していた以上にやる事が多く忙しい日々となりましたが、他の実行委員や青少年課の方々の支えのおかげで、無事にやり遂げることができました。

活動を通して強く感じたことは、どのようなことにおいても、誰かの協力なしには素敵な式典は実施できないということです。式典当日を迎えるまでの間、多くの方々にお力添えをいただきました。

お忙しい中にもかかわらず、お時間を割いてご協力くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

